第二編　畑作

第一章　甘藷試驗

第一節　第二期作水稻跡作甘藷試驗

目的　平地二期作早植水稻ヲ收穫セル跡地ニ甘藷ヲ植付ケセントスルニ際シ(一)假植法(二)直植法ノ二法ノ優劣ヲ試査シ併セテ各法ニ適スル優良品種ヲ選出セントス

方法

一、供試品種　紅皮外五品種

二、試驗面積　一品種1/3アール單區制

三、栽植期

A　假植法　九月二十日假植　十月十日定植

B　直植法　十月十日定植

四、收穫期　三月三十日

五、肥培管理　甘藷品種試驗ニ準ズ

成績

A　假植法

番号	品種名	一ヘクタール當 青蔓重量	一ヘクタール當 藷重量	一ヘクタール當 屑藷重量	一ヘクタール當 上藷重量	品質	藷重量指数
一	紅皮	一、九八四瓩一九	九、八六一瓩五〇	一、五五四瓩〇九	八、三〇七・四一	中	一二六
二	紅英國	一、五〇七・四九	一四、二四〇・二九	四四九・二二	一三、七九〇・九八	中	一八三
三	暗川	八、六二一・二五	一一、三二八・六三	七七五・一六	一〇、五五三・四七	中	一四五
四	小縮	一四、六七一・二五	九、六三四・六三	二、二九九・〇〇	七、三三五・六三	中	一二三
五	合農十七號	一、八九一・六六	六、一二一・八四	七七八・九四	五、三四二・九〇	上	七八
六	合農九號	一、六〇九・〇六	一、九二四・六六	五、五九六・三	一三、六五〇・三	上	二五

B 直植法

番号	品種名	一ヘクタール當 青蔓重量	一ヘクタール當 藷重量	一ヘクタール當 屑藷重量	一ヘクタール當 上藷重量	品質	藷重量指数
一	紅皮	四、〇〇八瓩一三	七、八〇四瓩五〇	一、五六九瓩二二	六、二三五瓩二八	中ノ下	一〇〇%
二	紅英國	一、六二五・九四	一三、二二六・八一	七一八・四四	一二、五〇八・三七	中	一六九
三	暗川	九、三七七・五〇	一二、五六八・八八	一、七六九・六三	一〇、七九九・二五	中	一六一
四	小縮	一三、九一五・〇〇	九、〇七一・二二	一、七六九・八三	七、三〇一・五九	中	一一六
五	合農十七號	一、六八四・六九	七、五七七・六三	七七一・三八	六、八〇六・三五	上	九七
六	合農九號	一、六〇九・〇六	一七、二八〇・三	二、六八〇・九二	一、四六七・一二	上	二二

備考　藷重量指數ハ紅皮種直植ヲ一〇〇トス。

第二節　食卓用甘藷品種試験（第三年）

目的　食卓用甘藷ノ多收優良品種ヲ見出サントス。

方法

一、供試品種

春植　台農九号外九品種

夏植　台農九号外十二品種

二、植付株間　畦巾九〇糎、畦溝四五糎、株間三〇糎

三、試驗面積　1/3アール單區制トス。

四、栽植期　春植　三月二八日　夏植　八月十日

五、收穫期　春植　九月一日　夏植　二月八日

六、管理　植付後一ヶ月目第一回除草ヲ行ヒ一ヶ月半目ニ除草ヲ兼ネ培土ヲナシ培土後春植八四日夏植八二日

蔓返シヲ行フ

七、肥料　一アール當堆肥七五〇瓩、粃殼灰二二五瓩、過燐酸石灰二六瓩二五〇人糞尿三七五瓩。

成績

試驗ノ結果收量多キモノ次ノ如シ

春植

番号	品種名	青蔓重量（一ヘクタール當）	藷重量（一ヘクタール當）	屑重量（一ヘクタール當）	上藷重量（一ヘクタール當）	品質	藷重量指数
一	唐户	二〇四一八瓩七五	一六、五七〇瓩九五	八七七瓩二五	一五、六九三瓩七〇	中	一四一

番号	品種名	青蔓重量	藷重量	屑藷重量	上藷重量	品質	藷重量指数
二	ナンシーホール	九、三〇一、八八	一四、九四三、五〇	七、八六五〇	一四、一五七、〇〇	上ノ上	一二七
三	台農九号	一九、八五二、五八	一四、七一四、六一	一〇七三、八七	一三、六四〇、七四	中	一〇〇
四	サウザンクヰン	一五、〇八七、二九	一二、一四五、三八	五七七、七八	一一、五六七、六〇	上	一〇三
五	元地	一九、四三〇、五〇	一二、四一九、三八	一二二五、二三	一〇、一九四、三五	上ノ上	九七

（夏植）

番号	品種名	一ヘクタール當 青蔓重量	一ヘクタール當 藷重量	一ヘクタール當 屑藷重量	一ヘクタール當 上藷重量	品質	藷重量指数
一	泊黒	七、〇三三瓩三	一四、二〇二瓩三八	一、五八八瓩二三	一二、六一四瓩二五	中ノ上	一一二%
二	サウザンクヰン	二、二六八、七五	一三、七七八、八八	一、三四六、一三	一二、四三二、七五	中ノ上	一一七
三	台農二二号	八、一六七、五〇	一〇、七八四、一三	一、一七九、七三	九、六〇四、四八	中ノ上	九二
四	台農二一号	一〇、二〇九、三八	八、九二三、七五	一、八一五、〇〇	七、一〇八、七五	中ノ上	七六
五	台農九号	四、九一五、六三	八、七九四、六三	六八五、六三	八、一〇九、〇〇	中	一〇〇

第三節　養豚飼料用甘藷品種試験（第三年）

目的　養豚飼料用トシテ甘藷蔓ノ柔軟ニシテ収量多キ品種ヲ選出セントス。

方法

一　[illegible]地

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

豫定畑地ヲ可啐ニ耕起シ土塊ヲ砕キ地面ヲ均一ニシタル後畦長十三米畦巾三五米ノ平畦ヲ作リ三十糎毎ニ浅キ作條ヲ開キタリ

二、植付株間　株間三十三糎ニテアール當三六〇本ヲ挿植

三、試験面積　一區ニテアール單區制

四、供試品種　春植(夏收穫)　台農二号外七品種
　　　　　　　夏植(冬收穫)　合農二号外九品種

五、挿苗期　春植　三月二九日
　　　　　　夏植　九月十三日

六、肥料　一アール當基肥トシテ堆肥七五〇瓩、過燐酸石灰二六瓩二五〇追肥トシテ籾殻灰二二五瓩ヲ施用セリ。
追肥ハ人糞尿ヲ用ヒ各採收後一三五〇瓩宛ヲ施用ス。人糞尿ハ三倍ノ水ニテ稀釋セルモノヲ用ユ

七、採收方法　當初ニ回ハ新蔓伸長セル部分ノミヲ摘採セルモ其後ハ伸長セル全茎ヲ地上ヨリ一〇糎位残シ採收セリ

成績　優良ナルモノ次ノ如シ

春植

番号	品種名	ヘクタール当青蔓收量(六ケ間合計)	蔓收量指数
一	合農二号	九八五二〇瓩六三	一〇〇%

番号	品種名	一ヘクタール当リ収量六ケ月間合計 青蔓	蔓重量指数
二	黄皮汕頭	八〇、五六三、六二	八二%
三	台農十六号	七三、二〇〇、四〇	七三

夏植

番号	品種名	一ヘクタール当リ収量六ケ月間合計 青蔓	蔓重量指数
一	小縮	三一、七〇三、〇〇瓩	一一六%
二	暗川	二七、三八〇、〇〇	一〇二
三	台農二号	二七、三六八、九九	一〇〇
四	白仔種	二七、三三〇、八八	一〇〇

備考　蔓重量指数ハ台農二号ヲ一〇〇トス。

第四節　甘藷増収試験（第一年）

目的　甘藷各種ニ対シ施肥量ノ差等ニヨリ増収ノ程度ヲ試査セントス。

方法

一、供試品種　夏作（春植）台農九号外三品種
　　　　　　　冬作（夏植）台農九号外三品種

二、植付株間　春植　畦巾九〇糎、畦高四〇糎　株間三〇糎
　　　　　　　夏植　畦巾二五糎、畦高五〇糎　株間三六糎

三、試驗面積　一アール單區制

四、施肥量（一〇アール當）

一、普通區施肥量

肥料名	數量	要素量 N	要素量 P	要素量 K	備考
堆肥	七五〇瓩〇〇	三瓩三七五	一瓩六一三	七瓩六五〇	基肥
籾殼灰	二二五・〇〇	｜	〇・九一九	〇・八一七	基肥
過燐酸石灰	二六・二五	・	四・九八八	｜	第一回培土ノ際
人糞尿	三七五・〇〇	二・一三八	〇・四八八	一・〇一三	第一回培土ノ際
計	・	五・五一三	七・九八八	九・四八〇	

二、增收區施肥量

(一) 春植

肥料名	數量	要素量 N	要素量 P	要素量 K	備考
堆肥	七五〇瓩〇〇	三瓩三七五	一瓩六一三	七瓩六五〇	基肥
籾殼灰	四五〇・〇〇	｜	一・八〇〇	九・一三五	基肥
過燐酸石灰	五六・二五	｜	一〇・六八八	｜	第一回培土ノ際
人糞尿	三七五・〇〇	二・一三八	〇・四八八	一・〇一三	第一回培土ノ際
計	｜	五・五一三	一四・五八八	一四・〇四八	

(二) 夏植

肥料名	数量	三要素量 N	三要素量 P	三要素量 K	備考
堆肥	一一二五、〇〇〇	五、〇六三	二、四一九	五、八五〇	基肥
籾殻灰	四五、〇〇〇		一、八〇〇	九、一三五	基肥
過燐酸石灰	五六、二五		一〇、六八八		第一回培土ノ際
人糞尿	五六二、五〇	三、二〇六	〇、七三一	一、五一九	第二回培土ノ際
計		八、二六九	一五、六三八	一六、五〇四	

成績

春植

普通区

一ヘクタール当

番号	品種名	青蔓重量	藷重量	屑藷重量	上藷重量	藷重量指数	品質	藷収量一〇〇ニ対スル青蔓収量比率
一	七十日早	九九八三、五〇	一九六九五、七八	一〇八三、四四	一八六一四、三四	一二〇%	中	九一%
二	台農九号	一九二八四、三八	一六四二五、七五	一〇五八、七五	一五三六七、〇〇	一〇〇	上	一一七
三	台農一七号	一四〇六六、二五	一二〇六〇、六八	八七三、七一	一一一八六、九七	七三	中/上	一一七
四	サウザンクヰン	一六二二一、五六	八八二三、九三	一三九一、九〇	七四三二、四三	五〇	上	一八四

増収区

一ヘクタール当

番号	品種名	青蔓重量	藷重量	屑藷重量	上藷重量	藷重量指数	品質	藷収量一〇〇ニ対スル青蔓収量比率
一	七十日早	一八二六三、四四	二五八五四、六八	六七一、五五	二五一八三、一三	一五七	中	七一%
二	台農九号	一九八五一、五六	一三六七九、〇五	一〇一〇、四二	一二六六八、六三	八三	上	一四五
三	台農十七号	二〇七五九、〇六	一五一六五、八四	九六八、〇〇	一四一九七、八四	九三	中/上	一三七
四	サウザンクヰン	二三四八一、五六	八一三八、七六	一一九一、八五	六九四六、九一	五〇	上	二八九

備考　春植ノ藷重量指数ハ標準肥料台農九号ヲ一〇〇トス

夏植　普通期（一ヘクタール当）

番号	品種名	青蔓重量	甘藷重量	屑藷重量	上藷重量	藷重量指数	品質	藷収量一〇〇ニ対スル青蔓収量比率
一	七十日早	三五二九.二五	三〇五〇九.五〇	一五二四.六〇	二八九八四.九〇	二一五	中	一七
二	台農九号	六三五三.五〇	一七七八七.〇〇	一四三六.八八	一六三五〇.一二	一〇〇	上	三六
三	台農三二号	一〇四三六.三五	一六一九八.八八	一九八一.三八	一四二一七.五〇	九一	上	六四
四	台農十七号	三六三〇.〇〇	一三四七六.三八	一四七九.一三	一一九九七.二五	七六	上	二七

増収区（一ヘクタール当）

番号	品種名	青蔓重量	甘藷重量	屑藷重量	上藷重量	藷重量指数	品質	藷収量一〇〇ニ対スル青蔓収量比率
一	七十日早	四〇三八.三八	二三〇〇五.二三	一一二九.三五	二一八七五.八八	一二九	中	一八
二	台農九号	八〇五四.〇六	一九八二八.八八	一二六四.四五	一八五六四.四三	一一一	上	四一
三	台農十七号	四四〇一.三八	一六七六六.〇六	二五四一.〇〇	一四二二五.〇六	九四	上	一六
四	台農三二号	一三七〇五.〇〇	一六六五二.六三	三一六七.一八	一三四八五.四五	九三	上	七八

備考　夏植ノ藷重量指数ハ標準肥料台農九号ヲ一〇〇トス。

第五節　甘藷ト陸稲トノ輪作試験

一、目的

茶業地其他交通不便ノ地ニシテ飯米ニ不足ヲ来タシツツアル地方ニ飯米ノ自給ヲ計ランタメ適品種ヲ見出サントス

二、方法

一、耕種概要

作物名	播種期	定植期	所要種苗（一〇アール当）	備考
陸稲（第一期作）	三月六日	―	七立	條間〇・四米 中耕除草四回
甘藷（第二期作）	―	七月二八日	三〇〇本	畦巾一米 畦高〇・三米

二、供試品種

陸稲　浦三外四品種

甘藷　七十日早外三品種

三、肥料　一〇アール当

陸稲、

元肥　大豆粕五六瓩、過燐酸石灰二三瓩

藁灰一二三瓩、

追肥　人糞尿六七五瓩（三倍ノ水ニ稀釋シテ用ユ）

甘藷

元肥　大豆粕五六瓩　過燐酸石灰二六瓩

藁灰二二五瓩

追肥　人糞尿三七五瓩（三倍ノ水ニ稀釋シテ用ユ）

成績

陸稲

番号	品種名	取寄先	出穂期	成熟期	成熟当時 采間穂数	成熟当時 草丈	穂長	粒数	一ヘクタール当 籾重量	一ヘクタール当 藁重量	品質	籾重量指数
一	三太郎	崎玉	六月二〇日	七月二三日	五五・〇本	九六・一糎	二二・九糎	九三	二四六五・三八瓩	三五一六・五六瓩	中	一六八%
二	浦三	崎玉	六、一七	七、一四	五三・七	一〇四・一	二三・五	七二	一四七一・六六	三九七〇・三一	中/上	一〇〇
三	凱旋糯一号	鹿児島	六、一八	七、一五	六九・〇	九三・三	二一・五	六一	一三二三・四四	四九九一・二五	中/上	九〇
四	野神力	鹿児島	六、二八	七、二六	六一・三	八七・八	二〇・五	八三	三七六六・一	一七五八・四三	中	二六
五	陸稲神力一号	宮崎	六、二八	七、二六	四六・〇	八七・五	二三・〇	九三	一四三・六九	一四七四・六九	中/下	一〇

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

甘藷

一ヘクタール当

番号	品種名	青蔓重量	藷重量	屑藷重量	上藷重量	藷重量指數	收穫期	品質	藷重量一〇〇ニ対スル青蔓收量比率
一	七十日早	五六七一八・八瓩	三一六一一・二五瓩	六六五・〇〇瓩	三〇九四六・二五瓩	一〇〇%	一〇、三一	上	一八%
二	台農十七号	九三〇一八・八	二六九九八・一三	一四三六・八八	二五五六一・二五	八五	一、三一	上	三四
三	台農二三号	一六三三五〇・〇	二一七一九・五〇	三七九六・三八	一七九二三・一二	六九	一、三一	上	七五
四	サウザンクヰン	八三九四三・八	一五九五六・八八	八六二・一三	一五〇九四・七五	五〇	一、三一	上	五三

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

第三款支場之部

第一編 畑作

第一章 苧麻作試験

第一節 品種試験（第五年）

目的 従来比較的優良ト認メタル品種並ニ交配育種系統分離ニ依リ選出セル新系統ニツキ蘭陽地方ニ適応セル優良品種ヲ見出サントス

方法 試験地トシテ砂質壌土先ニ砂土ヲ選定シ試験面積ハ一品種一区十アールトシ畦幅一、八〇米株間四五糎×四五糎トシ施肥ハ年四回トシ施肥量ハ一ヘクタール当大豆粕二、九二五瓩堆肥八、三六三、五瓩人糞尿十二、一五七、九四瓩トシ各肥料共全量ノ三〇％ヲ一月、五月ニ施用シ尚ホ全量ニ〇％ヲ七月九月ニ分施スルモノトシ品種ハ宜蘭大石寛外二十一品種ヲ供用セリ

成績 要

砂質壌土地ニ於ケル試験

全期ノ成績ヲ総合比較スルニ紅花種収量最モ多ク一ヘクタール当三、五三五瓩ヲ首位トシ之ニ次クハ細茎種ノ合北種三、四九五瓩紅花青心種ノ三四三五瓩細根苧ノ三、三三五瓩中茎種ノ嘉義白苧三二五〇瓩細茎種ノ内広豪種三、〇八〇瓩太茎種

ノ宜蘭大冇ハ九五五瓩ノ順序ニシテ從來當地方ニ栽培セラレシ宜蘭大冇種ヲ何レモ凌駕セリ

砂土ニ於ケル試驗

砂質壞土地ニ比シ各區五割ノ減收ニシテ紅花青心ニ、三一〇瓩台南烏皮苧ノ三、〇五瓩細根苧ノ三、〇六〇瓩宜蘭大冇種ハ一、八七〇瓩ナリ

本成績ヨリ見ルニ紅花種ノ如キハ細莖種ノ台北種紅花青心、細根苧ハ兩試驗地トモ在來宜蘭大冇種ニ優レリ

第三節　肥料試驗

第一項　三要素適量試驗（第七年）

目的　苧麻ニ對スル三要素ノ適量ヲ試査セントス

方法　各試驗區ヲ各要素共無窒素區無施用區三七瓩五〇〇區七五瓩區、一一二瓩五〇〇區一五〇瓩區ノ六區トシ二重試驗トス

一區ノ面積ヲ一坪トシ肥料ハ硫酸アムモニア　過燐酸石灰　硫酸加里ヲ用ヒ各期收穫後分施ス。

成分量ハ一ヘクタール當トス。

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

成績摘要

窒素ノ肥効ハ各期ヲ通シ窒素成分ノ多施ハ直接生育並收量ニ影響スルト雖モ當場試驗地ニ於テハ一ヘクタール當施用成分適量ハ一一二瓩五ヲ適當トシ是以上ノ施用ハ(化學肥料單用ノ場合)作ノ老熟ヲ早メ生育並收量不同ニ陥リ漸次減收ノ傾向アリ

燐酸ノ肥効ハ燐酸成分窒素成分ニ比シ試驗開始後迄ハ燐酸成分ノ肥効顯著ナラザリシモ前年(六年目)ヨリ漸次此ノ肥効ヲ認メラレルニ至レリ依ツテ四年目乃至五年目ニ於テ成分量一ヘクタール當七五瓩乃至一一二瓩五ヲ適當ト認メラル

加里ノ肥効ニ於テハ燐酸ト等シク五年目迄ハ加里成分ノ肥効顯著ナラザルモ六年目ヨリ稍此ノ肥効ヲ認メラル、ト雖モ此ノ差著シカラズ依ツテ四年目乃至五年目ニ於ケル成分量一ヘクタール當七五瓩ヲ適當ト認ムル

第二項　大豆粕施肥量試驗(第五年)

目的　苧麻ノ肥料トシテ大豆粕ヲ施用スルニ當リ適當ナル施肥量ヲ知ラントス

方法

試驗種別次ノ如シ

(一)無肥料區

(二)大豆粕五四八瓩區

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

(三) 大豆粕一、一六八瓩區
(四) 大豆粕一、七五二瓩區
(五) 大豆粕二、三三六瓩區

備考 施肥量ハ一ヘクタール當トス。

成績

概要

本試驗ノ結果ニヨリ之ヲ觀レバ大豆粕ノ多施ハ直接收量ニ影響シ第三區ヲ標準トスレバ此收量一、六六〇瓩ニシテ第二區ノ五割減施用區ハ一、三八五瓩第四區ノ五割增施用區ハ一、八二五瓩第五區ノ二倍施用區ハ二、一八五瓩ニシテ無肥料區ハ一九五瓩ナリ。

第三項 人糞尿施用量試驗（第五年）

目的 人糞尿ヲ苧麻ノ肥料トシテ施用スルニ當リ適當ナル施用量ヲ知ラントス。

方法 試驗區別次ノ如シ

(一) 無肥料區
(二) 六、五七七瓩區
(三) 一三、一五五瓩區
(四) 一九、七三二瓩區

(五) 二六三一〇瓩區

備考　施肥量ハ一ヘクタール當トス。

成績概要

大豆粕施肥量試験ト等シク肥料ノ多施ハ収量ヲ増加シ第三區ヲ標準トスレバ此ノ収量ハ一、一七〇瓩ニシテ第四區ノ五割増區ハ一、七三〇瓩第五區ノ二倍増區ハ二、一一六瓩ニシテ之ニ反シ第二區ノ五割減施用區ハ八六〇瓩無肥料區ハ三六五瓩ニシテ如何ニ苧麻ハ多量ノ肥料ヲ必要トスルヤハ明ナリ

第四項　肥料用量試験（第八圃）

目的　當場標準施肥量ニ對シ其量ヲ如何ナル程度迄ニ増施スル　ヲ得策トスルヤヲ試査セントス。

方法　試験區別施肥量（一ヘクタール當）

番號	區別	大豆粕	堆肥	人糞尿
一	無肥料區	―	―	―
二	標準肥料 1/2	一四六二瓩五〇〇	四一八瓩七五〇	六五七八瓩九七〇
三	標準肥料區	二九二五〇〇〇	八三六七五〇〇	一三一五七九四〇
四	五割増肥料區	四三八七五〇〇	一二五四二二五〇	一九七三六九一〇

番號	區別	大豆粕	堆肥	人糞尿
五	二倍増肥料區	五八五五〇〇〇	一六七二三〇〇	二六三一五八八〇
六	二倍半増肥料區	七三一二五〇〇	二〇九〇三七五〇	三二八九四八五〇

成績概要

本期ノ成績ヲ總合比較スルニ標準施肥量ノ收量ヲ三・五五〇瓩ニ五割増區ヲ三・一一五瓩、二倍増區三・二七〇瓩、二倍半増區三・二九五瓩ニシテ當地方トシテハ大豆粕ヲ主トセル場合ハ五割増區ヲ有利トシ最以上ヲ施用スル場合ハ大豆粕ノ使用ヲ考慮セザルベカラズ即チ液肥トシテ施用スルヲ安全トス。

第三節　交配ニヨリ新品種育成（第五年）

目的

苧麻ノ分蘖力旺盛ナルモノ、長幹太莖ナルモノ、纖維細美ニシテ剝離シ易キモノ、收量多ク耐病性強キモノ等ヲ夫々其特性ヲ配合シテ交配ニヨリ地方最適ノ優良品種ヲ得ントス

成績

昭和四年度ニ交配セシモノ、中ヨリ左ノ十五系統ヲ選擇セリ。

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 95

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

番号	♀	♂	選擇系数
一	細根苧	嘉義白苧	二
二	紅花青心	嘉義白苧	三
三	合北種	嘉義白苧	二
四	宜蘭大冇	烏皮白	三
五	烏皮白	細根苧	二
六	嘉義白苧	紅花青心	三

第二章　黄麻作試験（第五年）

第一節　品種試験

目的　黄麻ノ品質優良ナルモノヲ選擇セントス。

方法

一　供試品種

宜蘭深紅皮種（標準）　貧林種　斗六種　北斗種　支那種

二　肥培管理

畦ノ長サ一八〇糎播溝幅一八糎條間四二糎トシ一八〇糎間ニ間引後各二〇本立トセリ

施肥量ハ一ヘクタール當人糞尿一八、〇〇〇瓩ヲ数回ニ分施シ発芽後一二糎乃至一五糎ニ伸長セル時二〇本宛ニ間引ヲ行ヒ播種後二ヶ月目ニ培土ヲ行フ

成績概要

番号	品種名	播種期	収穫期	収穫当時ノ草丈	生茎量	乾繊維量	乾繊維ノ生茎ニ対スル歩合
一	宜蘭深紅皮種(標準)	四月一二日	八月一七日	二九〇糎	三一二〇〇瓩	一五五〇	五、〇%
二	貴林種	四、一二	八、一七	三九〇	三四五〇〇	二八〇〇	八、〇
三	斗六種	四、一二	八、一七	三九〇	三〇〇〇〇	二七〇〇	九、〇
四	北斗種	四、一二	八、一七	四一〇	二八六五〇	二七〇〇	九、三
五	支那種	四、一二	八、一七	四二〇	三三七九〇	二八〇〇	八、三

在来ノ宜蘭深紅皮種ハ一九〇糎頃ヨリ多数分枝シ且ツ之カ為発芽ヲ疎害サルヽヲ以テ収量少ク然ルニ台中種及支那種ハ在来種ヲ凌駕シ就中貴林種ハ量モ優レリ

第三章 柑橘試験

第一節 高墻桶柑肥料三要素試験

目的 高墻桶柑ニ対スル各要素ノ効果ヲ試査シ基礎的所要施用標準量査定ノ資ニ供セントス

方法

試験区 無肥料区 無窒素区 無燐酸区 無加里区

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

三　肥料

完全區ハ五區トシ一區ノ樹數ヲ三本宛トス

肥料ハ化學肥料ヲ用ヒ三要素量次ノ如シ

(イ) 三年生ニ施用スヘキ三要素量一本ニ對シ一〇〇瓦宛トス

(ロ) 樹齡一年ヲ増ス毎ニ各要素量ヲ夫々二五瓦宛ヲ加算ス

樹齡八年目一本ニ對スル施肥量次ノ如シ

區別	施肥全量 硫安	施肥全量 過石	施肥全量 硫加	第一回 二月末迄 五〇% 硫安	過石	硫加	第二回 四月末迄 三〇% 硫安	過石	硫加	第三回 九月末迄 二〇% 硫安	過石	硫加
無肥料												
無窒素		一〇七八・七五	四九三・七五		五三九・三七五	二四六・八七五		三二三・六二五	一四八・一二五		二一五・七五	九八・七五
無燐酸	一〇〇〇		四九三・七五	五〇〇		二四六・八七五	三〇〇		一四八・一二五	二〇〇		九八・七五
無加里	一〇〇〇	一〇七八・七五		五〇〇	五三九・三七五		三〇〇	三二三・六二五		二〇〇	二一五・七五	
完全	一〇〇〇	一〇七八・七五	四九三・七五	五〇〇	五三九・三七五	二四六・八七五	三〇〇	三二三・六二五	一四八・一二五	二〇〇	二一五・七五	九八・七五

備考　施肥期ハ摘果後翌年二月迄ノ間一回、開花終了後ノ四月末頃第二回目ヲ成長最モ旺盛ナル盛夏ヲ過ギタル九月末頃第三回目ヲ合計三回ニ分施シ各期施用量ハ一回目全量ノ五〇%二回目三〇%三回目二〇%ノ割合トス

成績

(イ) 摘要

該試驗ハ施行第三ヶ年目ニシテ肥料ニ依ル生育ヲ比較ス

(ロ) 樹高ニ於テ無燐酸區最モ高ク無窒素區無肥料區完全區

ノ順ニシテ枝張ハ無肥料區廣ク無燐酸區完全區、無窒素區無加里ノ順ニシテ樹幹ニ於テハ無燐酸區ヲ首位トシ無肥料區完全區無窒素區無加里區ノ順序ナリ
收量ニ於テハ無燐酸區最モ多ク之ニ次グハ完全區、無加里區、無窒素區無肥料區ノ順序ニシテ品質良好ナリシハ無窒素區ニシテ之ニ次グハ無加里區及完全區ニシテ果皮ノ光澤アリシハ無肥料區ニシテ無窒素區、無燐酸區何レモ良好ナリ、
樹勢ハ完全區、無燐酸區及無加里區ハ何レモ開扇狀ヲ呈シ枝張旺盛ニシテ充分横ニ伸張シ強勢ナル樹形ヲ呈シ無窒素區無窒素區、無肥料區ハ樹勢若ニ劣レリ。

果實調査

試驗別	高サ	直徑	形比	重量	果皮厚サ	果皮重量	嚢皮重量	果肉重量	果肉歩合	[illegible]總重量	完全種子
一、無肥料區	六八粍	六六粍	〇.九二	一三六瓦	〇.三八粍	三七瓦	七瓦	九九瓦	〇.七三	四三瓦	一
二、無窒素區	五七	六二	〇.九二	一一一	〇.三二	三〇	八	八一	〇.七二	三八	一
三、無燐酸區	六〇	六五	〇.九二	一三三	〇.三六	三六	七	九七	〇.七三	四三	一
四、無加里區	五六	六三	〇.八九	一一三	〇.三八	三二	六	八〇	〇.七一	三九	一
五、完全區	六〇	六六	〇.九二	一二八	〇.四三	四四	八	八四	〇.六六	五三	一

第二節　窒素質肥料種類試驗（第三年）

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

目的　窒素質肥料ノ種類ヲ異ニセル場合柑橘ノ特性及收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ試査セントス。

方法

一、試驗區　左記肥料ヲ主肥トシ所含窒素量ヲ一定シ燐酸及加里ハ夫々過燐酸石灰硫酸加里ヲ以テ補充ス

(一)緑肥區

(二)硫酸アムモニヤ區

(三)推肥區

(四)大豆粕區

(五)人糞尿區

(六)緑肥(三三%)大豆粕(三三%)硫酸アムモニア(三三%)混合區

(七)堆肥(五〇%)大豆粕(二五%)硫酸アムモニア(二五%)混用法

(八)硫酸アムモニア(五〇%)骨粉(五〇%)混用區

二、肥料　三要素量ハ各區共一樹當リ二二五九施用ス、(六)(七)(八)區ノ混用區ノ%ハ各肥料中ノ窒素所含量ノ配合ノ割合ヲ示ス

成績概要

~~施~~收肥量ニ於テハ人糞尿施用區最モ優リ硫酸アムモニア區硫酸アムモニア骨粉混用區大豆粕緑肥混用區、推肥大豆粕硫酸アムモニア混用區、推肥區、緑肥區ノ順ニシテ品質ニ於テハ人糞尿區最モ優リ推肥區大豆粕區緑肥區ニシテ他ハ大同小異ナリ。

果實ノ外觀ハ人糞尿區、硫安區ハ比較的良好ナルモ他ハ劣レリ。

第三節 肥料數量試驗

目的 施肥量ニ依ル柑橘ノ特性並ニ收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ試査セントス。

方法 試驗區別施肥量（一區一本當）

番号	區別	堆肥	大豆粕	硫酸アンモニア	過燐酸石灰	硫酸加里
一	標準肥料區	二五、〇〇〇五	一、〇五〇五	、二二一五	、八三六五	、一七六五
二	標準肥料五割減區	一二、五〇〇	、五二五	、一一一	、四一八	、〇八八
三	標準肥料五割增區	三七、五〇一	一、五七五	、三三二	一、二五四	、二六四
四	標準肥料倍量區	五〇、〇〇二	二、一〇〇	、四四二	一、六七二	、三五二

備考 一區三本トシ肥料ハ堆肥、大豆粕ハ二回ニ他ハ三回ニ分施ス

成績 收量及品質ニ於テハ五割增區最モ良好ニシテ標準區之ニ次ギ五割減區、培量區ノ順ナリ。

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

第四款 種苗及印刷物配布

第一章 苗種配布

台北本場

作物名	品種名	單位	數量	配布先
水稻（稉）	台北一号	立	二七	沖繩、新竹農事試驗場、基隆、文山、宜蘭各郡
	台北六八号	立	五	台中市
	台北晚二号	立	一四	基隆郡
	台北晚三号	立	二六	沖繩農事試驗場、文山、海山各郡
	台北晚八号	立	〇.四	沖繩農事試驗場
	台北晚二一号	立	〇.四	仝右
	台北晚四六号	立	〇.四	仝右
	神力四号	立	二	海山郡役所
	宜支關取	立	〇.四	沖繩農事試驗場
	K一二七八	立	一八	七星
	K√一五七九	立	九	仝右
	台中六五号	立	七二	台北市、七星、基隆、文山、宜蘭、蘇澳
	京錦X晚二号F5 3/1	立	一一.三	沖繩、新竹農事試驗場、七星郡
計		立	一八五.八	

作物名	品種名	単位	数量	配布先
糯	鶯蛋	立	九七・八	台北市・文山・高雄農試・沖縄農試
	在来種糯	同	〇・四	高雄農試
	晩二一号	同	〇・四	沖縄農試
	晩二二号	同	〇・四	仝右
計			九九・〇	

作物名	品種名	単位	数量	配布先
陸稲（粳）	戦捷	立	二	海山
	霧島	同	四	東部農産試験場
	蒲三	同	二四	海山・文山・東部農産試験場
	三太郎	同	二三	同右
	野神力	同	一	海山
計			五三	

作物名	品種名	単位	数量	配布先
陸稲（糯）	藤蔵糯	立	五	海山
	國光糯	同	二	同右
	凱旋糯	同	四	同右
計		同	一一	

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

作物名	品種名	單位	數量	配布先
黄麻	宜蘭深紅変種	立	〇、四	關東州農事試驗場
	貧林種	同	〇、四	同右

作物名	品種名	單位	數量	配布先
綠肥	豌豆白花	立	〇、四	熊本農事試驗場
	同 紫花	同	〇、四	同右

作物名	品種名	單位	數量	配布先
甘藷蔓	台農二号	本	四、四〇〇	七星・淡水・新莊・文山各郡・
	台農九号	同	三、三八〇	台北市・淡水・新莊・海山・文山各郡
	台農十号	同	四〇〇	台北市
	台農十六号	同	一、八〇〇	文山郡
	台農二〇号	同	二、三五〇	七星・淡水・海山各郡
	台農二一号	同	一、六〇〇	海山郡
	台農二二号	同	一、五〇〇	同右
	台農二三号	同	一、四〇〇	同右
	計	同	一〇三、七五〇	

、宜蘭支場

作物名	品種名	單位	數量	配布先
蕃石榴		本	五、五〇〇	宜蘭、羅東、蘇澳、文山郡下
紅肉李		同	七二〇	羅東、蘇澳、文山郡下
白桃		同	三四〇	宜蘭郡、
早杏李		同	三八五	同右
葡萄（無償）		同	一、二〇〇	宜蘭、羅東、蘇澳郡下
計		同	八一四五	

第二章 印刷物配布

農事試驗年報　第七号（昭和六年度）　三〇〇部

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

第五款 蔗務

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

第一編　經理

第一章　昭和七年度豫算及決算

項目	豫算	決算	比較 增	比較 減
農事試驗場費	二一、八一八円〇〇	二一、三二九円八五	—	四八八円一五
雜給	七、五〇四・〇〇	七、五〇三・四〇	—	・六〇
事務費	二、〇三〇・〇〇	一、九五五・〇三	—	七四・九四
旅費	一、二八三・〇〇	一、一八一・八九	—	一・一一
事業費	一一、〇〇一・〇〇	一〇、六八九・五三	—	三一一・四七

第二章　土地及建物

種別	本場	支場	合計
事業用土地	四町九〇〇〇	三町二四二二	八町一四二二
田	四・三〇〇〇	—	四・三〇〇〇

種別	本場	支場	合計
畑	〇町、六〇〇〇	二町、五七〇〇	三町、一七〇〇
道路其他	—	〇、六七二二	〇、六七二二
事業用建物	二三九坪二五〇	五三坪五〇〇	二九三坪七五〇
廳舍	一一七、五〇〇	—	一一七、五〇〇
作業所	一五、七五〇	二六、〇〇〇	四一、七五〇
倉庫	三五、〇〇〇	九、五〇〇	四四、五〇〇
堆肥舍	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	一六、〇〇〇
作業小屋	三八、〇〇〇	一二、〇〇〇	五〇、〇〇〇
金網室	二〇、〇〇〇	—	二〇、〇〇〇
井戸	三、〇〇〇	—	三、〇〇〇

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

第二編　庶務

第一章　文書收發

要項	本場		支場		場計	
	発送	收受	発送	收受	発送	收受
取扱件数	九一	三二三	九四	五五	一八五	三七八

第二章　昭和七年度末現在職員

場長
産業技師　中目敬治

本場勤務職員
産業技手　古寺堯喜
同　藤本隅太
同　後藤國雄
技手　川上親義
雇　卯漢城
雇　劉秋冬

支場勤務職員

雇　長井三郎

産業技手　伊藤利作

雇　番光櫻

兼務職員

地方技師　梶原通好

同　犬飼圓碩

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895